

平成24年度県研究指定校事業(道徳教育)

研究主題 生命を大切にする心を育む道徳教育

あま市立甚目寺南小学校

1 研究概要

本校は、愛知県教育委員会より1年間の研究委嘱を受け、平成24年4月から「命を大切にする心をもつ児童の育成」に取り組んできた。「話し合い活動を重視した道徳の時間を通して」をサブテーマとして、道徳の時間において、自他の命の尊さに触れた資料や命あるものの生死に関する資料などを扱い、命の偶然性・有限性・連続性をテーマとして話し合い、命の大切さについての考えを深めることができる指導を目指した。

(1) ねらい

命あるものを無条件で大切にしようとする考え方は、児童が成長する過程のさまざまな場面で教えられてきており、絶対を守るべきであると認識されている。しかし、日常生活においては、一部の児童において危険な遊びをしたり、自己肯定感の低い投げやりな言動をとったり、他者や命あるものを慈しむ気持ちの不十分さの見える言動をとったり、「命を大切にする」という判断力・心情が十分に育ちきっていないことがうかがえる。一方で、東日本大震災後、多くの人々が今も心に痛みを抱えて生きているという情報を受け、同年代の子ども達が深い悲しみに直面していたり、多くの人々が満足ではない状況で生活をしたりしていると知り、心を動かされ、命の大切さへの思いを新たにしたいという児童もいる。

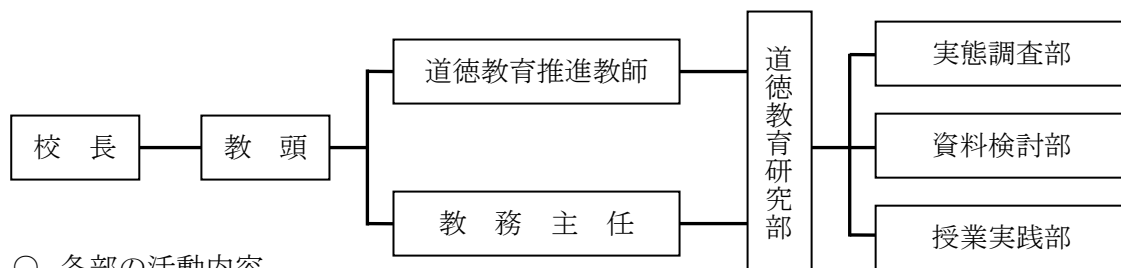
これらのことから、自他の命について自分なりに考えを深めていく場を設定することで、命を大切にすることの意義を自分とのかかわりでとらえさせ、命を大切にする心情を深めていくことができると考えられる。

また、他教科や行事等で命の大切さにつながるのある活動を、道徳の時間の前に行い、補充・深化・統合できるように、「命の大切さ」を意識した指導を計画的に行うことによって、さまざまな場面で命について感じたり考えたりして行動することができる児童を育てていきたい。

(2) 研究の方法

① 研究の組織

- 道徳教育推進教師を中心に、「実態調査部」「資料検討部」「授業実践部」の各部が連絡調整を図り、学校全体で取り組む



- 各部の活動内容

【実態調査部】 アンケートの実施、集計、分析を行う。

【資料検討部】 各教科・領域とのかかわりを意識した資料を発掘し、資料の活用や保管の工夫を行う。

【授業実践部】 クラスの実態に応じた道徳の授業実践(研究授業)を行う。

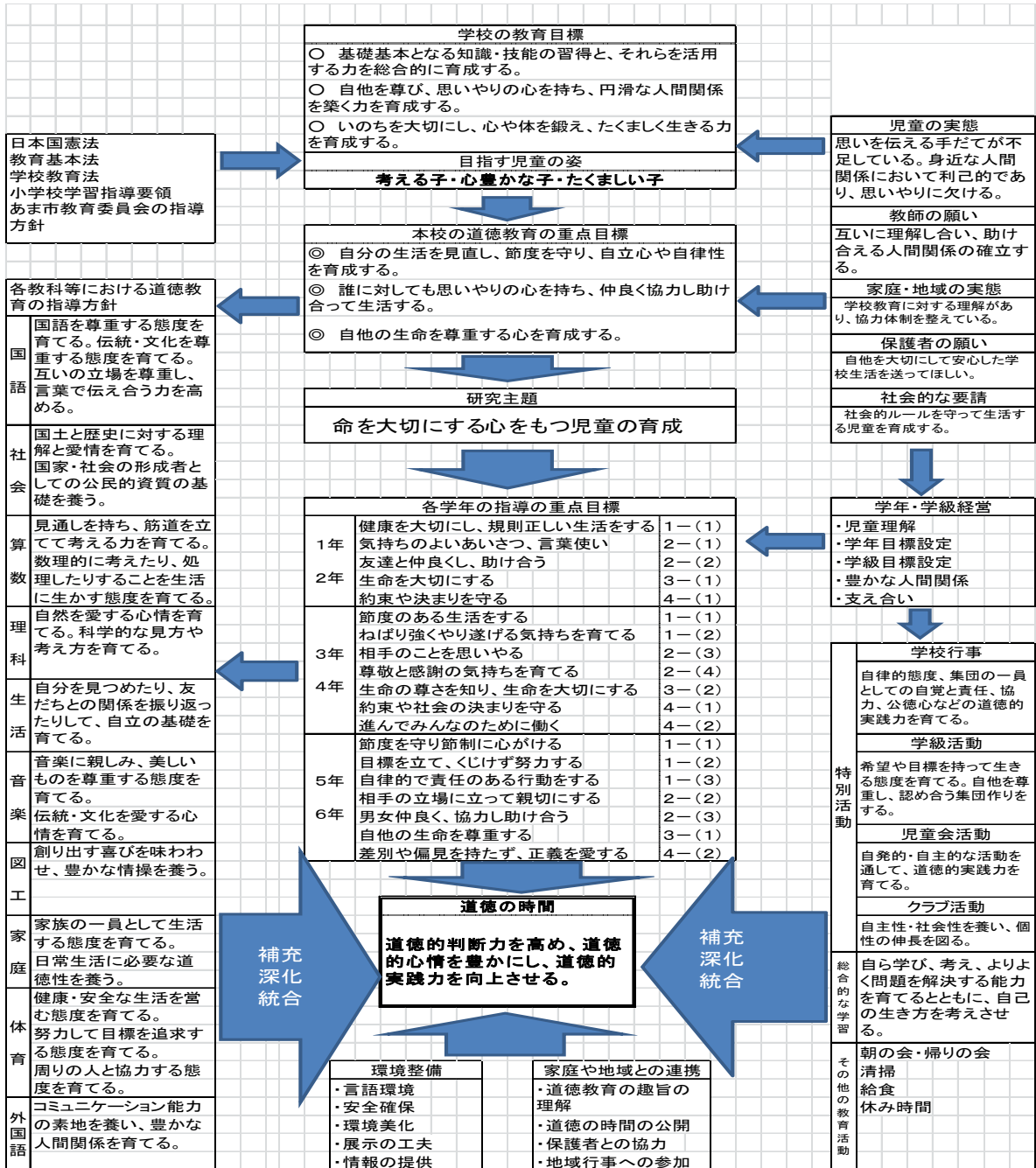
(指導過程、座席配置、発表時、板書等を工夫した授業実践)

② 研究の対象 全学年

③ 研究の仮説

道徳の時間に「命の大切さ」をテーマに話し合い、命を尊ぶ思いを育てることを継続していくことで、命を大切にする心を豊かにすることができるだろう。

④ 研究の構想



⑤ 研究の手立て

○ 道徳教育研修会の実施

道徳教育に対し、深い識見を持つ外部講師を招き、全校で道徳教育研修会を実施し、道徳教育に対する理解を深める。

○ 年間指導計画の作成

学年ごとに年間指導計画を作成する際、「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」を、年間を通じて継続的に取り組めるよう、また教科や特別活動・学校行事との関連を考えながら作成する。

○ 授業実践

アンケート結果を考慮し、資料等を十分吟味した上で、「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」に関わる授業研究を行い、授業反省会等を通じて研究を深める。

2 研究の成果

(1) 道徳教育推進教師を中心とした3部会での研究推進

道徳教育推進教師を中心とし、実態調査部・資料検討部・授業実践部の3部会で研究を推進した。「実態調査部」では、アンケートを集約・分析し授業に生かすこと、「資料検討部」では、日々の授業の資料をまとめ、同一資料をだれでも活用できるようにした。また、「授業実践部」では、研究授業を通して授業がねらいに即しているか、改善点はないか等を中心に検討することができるようにした。

(2) 年間指導計画の作成

各学年で道徳の時間の年間指導計画を作成した。その中でも「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」については、各教科や特別活動、学校行事との関連を明らかにした。それによって、各教科での学習内容や行事などの出来事が道徳の指導内容とかかわりがある場合、話し合いの内容を身近に感じて理解しやすしたり、自分の経験や課題を振り返りながら考えを深めたりすることができるようにした。そして、継続して生命尊重にかかわる価値観を高めることができるように授業に取り組むことにした。また、「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」についての項目にあたる資料を各学期に2～3回実施するように計画を立て、児童が生命の大切さについて内容を着実に積み上げていくことができた。

(3) 道徳教育研修会の実施

道徳教育に対して幅広い見識と深い専門性を持つ武豊小学校の柴田八重子先生を招き、道徳教育研修会を行った。

○ 第1回道徳教育研修会

年度当初にあたり、道徳の時間のあり方・組み立て方についての研修を行った。「特質を生かし、話し合い活動を深める道徳授業」というテーマで講話をいただき、主に、指導案の立て方や資料活用・指導過程の工夫、主発問以後の話し合いの深め方を具体的に学ぶことができた。

○ 第2回道徳教育研修会

低学年(1年生)で研究授業を行い、授業反省会を行った。反省会では、ペープサートを生かした授業や資料提示の方法について適切な助言をいただいた。研修会では、「道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導過程」というテーマで講話をいただいた。自分の考えを表現する機会の充実と、学び合いの場づくりについて学び、職員の意識を高めることができた。また「生命尊重」については、「輝いている命、つながっている命、不思議な命」という命を大切に授業で大事にしていかなければならない価値観について学ぶことができた。

(4) アンケートの実施

5月に全校児童を対象に、「命について考えていくために」のテーマでアンケートを実施した。結果からわかる児童の意識や実態を踏まえて資料を選定し、指導過程の留意点として生かすことができた。

(5) 話し合い中心の道徳の時間とするための指導形態の工夫

児童相互の意見交換を活性化するために、机配置を工夫した。机の配置をコの字型にし、話し合いでは人の顔を見ながらお互いの表情が確認できるように配慮した。また、自分の考えがまとまったら挙手をせずに静かに立ち発表することにした。そして、意見が同じなら黙ってすわることにした。学校全体で取り組むことで、どの学級でもじっくりと考えて発言し、一人一人の考えが大切にされるようになった。

(6) 授業実践(5月～12月)

3年生の授業実践

主題名 小さいのちに 触れて 3-(2)自然愛・動植物愛護

資料名 ありがとう、モンシロチョウ 【出典:「明るい心 3年」愛知県教育振興会】

《 授業の実際 》

工夫した点

- モンシロチョウの飼育を理科の授業で事前に行い、命の大切さについて実感する機会を設けた後、道徳の授業を行った。児童が主人公の心情を深く考え、自分の価値観をまとめやすくなり、話し合い活動が活発になるようにした。
- 語りて授業をし、児童が資料の世界に入り込みやすくした。

理科の学習でモンシロチョウの観察をしていた児童は、実際に教室でたまごから成長する様子を見守り、成虫となって羽ばたく様子を目にしていた。そのため、さなぎがモンシロチョウになったときの主人公の心情について話し合うと、「色の変化があってすごいと思った」や「とびたつたチョウがまたたまごを産むところを見てみたい」など、実際に観察したときの体験を思い起こした意見が出された。また、主人公が成虫になったモンシロチョウを放そうと担任の教師に言われたときの心情については、「もっと見たい」「ずっといっしょにいたい」という、愛着があつて離れがなくなっているという気持ちと、「弱ってしまう」というチョウの命を大切に考えた気持ちが出された。児童は離れがたいと思っている主人公に強く共感を示しながらも、命の大切さを考えると自然に返すべきではないか、ということについて話し合うことができた。

6年生の授業実践

主題名 過去から未来へと続く命の尊さ 3-(1)生命の尊重

資料名 六千人の命のビザ【参考 HP:間森誉司氏 HP(人権学習指導案)】

工夫した点

- 未学習の歴史や用語には簡潔な説明を加え、主人公の置かれた状況に入りやすくした。
- 児童が考えをまとめにくいと思われる発問では、二択形式で問うことで意見をまとめやすくし、その後で理由を問うようにした。

《 授業の実際 》

資料は、第二次世界大戦時にリトアニアの日本領事館で領事代理をしていた杉原千畝とユダヤ人とのやりとりが中心なので、児童にユダヤ人が逃げようとしている背景や、ビザを発行できない事情を簡潔に補足した。

「あなたが杉原さんならビザを発行しますか」という発問では、「発行するかしらないか決まった人から立ちましょう」と二択形式にしたことで、全員が立ち上がり、発行するかしらないかの意思表示をすることができた。その後で理由を問かけると、「助けない・死なせたくない」「時間がかかって大変だから、発行しない」「外交官としての信用を失うかもしれない」「外交官を辞めさせられるかもしれない」という意見や、「同じ人間だから、放っておけない」「自分たちがユダヤ人の立場だったらと考えるとビザを発行してほしい」という民族を意識した意見など、さまざま視点から考えた意見が述べられた。また、人の命は国や民族の相違にとらわれるものではないということについては、杉原千畝についてのテレビ番組の映像資料を見せることで、児童が理解しやすくなるように配慮した。動画を見た後、「杉原さんの決意や行動から学んだこと、命について考えたことは何ですか」と問かけると、「命は1つしかないので、大切にしないといけないと思った」など、命の尊さを再認識した意見が出された。

1年生の授業実践

主題名 生き物を大切にしよう 3-(2)自然愛・動植物愛護

資料名 たすけて【出典:「みんなのどうとく 1ねん」学研教育みらい】

工夫した点

- ペープサートを持たせることで主人公に寄り添いやすくし、多様な意見を引き出した。
- 語りで授業をし、児童が資料の世界に入り込みやすくした。

《 授業の実際 》

せみの幼虫が脱皮の準備のために木に登ったところを、人間の男の子に捕まえられるが、最後には逃がしてもらえるという内容である。

中心発問の前に脱皮の準備をする幼虫の気持ちや、男の子から解放されたときの幼虫の気持ちについて話し合った。その時に、授業の初めに提示した資料の具体物をペープサートとして児童に持たせて意見を発表させることで、発言への意欲が高まった。「早く木に登りたい」「大人になるからどきどきどきする」など、成長への期待が大きいことに目を向けた意見や、「木に戻してくれてよかった」「また木に登れてうれしい」など、解放され

て喜ぶ幼虫の気持ちに寄り添った意見が出された。次に中心発問の「虫を捕まえるのは、いけないことなのかどうか考えよう」について話し合わせた。虫を捕まえることが大好きな児童や、虫や動物を実際に飼っている児童も多く、「いい」「いけない」を問うと「いい」という児童の方が多かった。「いけない」という立場の児童からは、「虫が苦しくなるといけない」「育てられなかったらいけないから」「死んでしまうから」などの理由が挙げられた。「いい」という立場の児童からは、「虫が好き」という理由に賛成を示す児童が多かったが、「きちんと世話をするならいい」と、虫の命を大切にしなければいけないということに目を向けた考えも出された。

幼虫の心情を考えたときには、虫を捕まえるのは当然いけないという考えだった児童も、自分の生活を振り返って考えてみると、そう言い切れないと気付いたことで話し合いが深まっていった。

また、自分の意見が共感的に受け止められていると実感させることで、意見を発表しやすくなるように他者の意見を共感的に受け止める聞き方が大切であることを児童に伝え、教師も共感的に意見を聞く姿勢を見せるように心がけた。具体的には、うなずきながら聞く、おどろきや感動を言葉にして返す、意見の要点を繰り返すことで受け止めたことを示すなどの姿勢を示した。

そのようにして教師がどの意見も共感的に聞くことで、児童も自然と発言者の顔を見ながら話を聞くようになり、また、うなずきながら話を聞く姿も見られるようになり、意見を言いやすい雰囲気の中で授業を行うことができるようになってきた。

さらに板書については、次のような工夫をした。話し合い活動を通して児童の考えを深めるために、要点を整理しながら板書することで、大事なことを明確にしていった。整理するときには、端的なことばにし、発表された順に書くのではなく、価値観ごとにまとめて書くようにした。特に低学年では、同じ内容でも少しことばが違えば異なる意見だと思いがちなので、整理された板書によって自分の価値観を見直すことができた。

2年生の授業実践

主題名 「生きている」って・・・ 3-(1)生命の尊重

資料名 いろんなものがきれいに見えるよ【出典:「小4教育技術」小学館】

工夫した点

- 命の大切さについて話し合う時間には、テーマソングを歌ってから始めることで、「命」がテーマであるということ意識づけた。
- 児童の意見の要点を価値観ごとに整理し、板書を生かして話し合いを深めた。

《 授業の実際 》

授業の導入では、「生きてる 生きてく」という歌をうたい、授業へのウォーミングアップとした。歌は生命の尊重に関する道徳の時間には毎回歌っているもので、児童もリラックスした雰囲気の中で資料を聞く構えができた。資料は、幼い頃に白血病であったことを知った主人公が、生き続けることができるのかどうかを不安に思い、悩むという場面から始まる。病院の先生に心配はないと教えられ安心するとともに、同じ病気で入院していた3人の人物の話聞き、主人公は生きる意欲を新たにするという結末である。

「病院の先生の話聞いて主人公はどんなことを思っただろうか」という発問に対しては、「病気が治って、うれしい」という主人公の安心感だけでなく、「入院中に優しくしてくれた人に恩返しをしたい」「亡くなった友達に対して)天国でも勉強をがんばってほしい」など、さまざまな視点から意見が出された。教師が意見をまとめながら整理して板書することで、自分の意見がどのような立場なのかを児童が再確認しやすくなった。

(7) 研究授業を通して得られた成果

- ・ 年間指導計画を立てることで適切な時期を見極めて合う主題の授業をすることができ、児童にとっては話し合いの内容に興味を深め、自分の生き方の課題と結びつけて受け止めることができた。
- ・ 語りや読み聞かせによる資料提示や具体物の提示などの工夫により資料に入り込みやすく

したことで、児童の資料への集中力が高まり、登場人物に共感したり、自分ならどうするかということを考えたりしやすくなった。その結果、道徳の時間を通して命についての自分なりの考えを深めることができた。

- ・ 教師が話し合い活動を中心とした授業を意識したことで、児童は率直な思いを発言しやすくなり、さまざまな視点からの意見が出されるようになった。それによって、資料世界での話し合いが深まり、学び合いが豊かになり、命についてのそれまでの自分の価値観を超える新たな価値観に気づけることが多くなってきた。自分の生き方に引き寄せて受け止めることもしやすくなった。

3 今後の研究計画

- ・ 互いの価値観から学びを深めていく段階で、児童が級友から何を学んでどう成長できたかを実感・自覚できるようにしたい。全ての児童が自己の価値観の成長を語りたいと思う場づくりを今後も進めていきたい。
- ・ 「生命の偶然性」や「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」についての資料は、厳しく悲しい現実に向きなくてはならない場合や、抽象的な話になる場合もあり、児童の実態に合った資料活用の工夫を大切にしたいと感じた。授業を実践してみて、他学年で用いる方が適切ではないかとわかる資料もあったので、実態を見極めて適切な資料を探すことや、実践の結果を共有できるような体制づくりを目指していきたい。